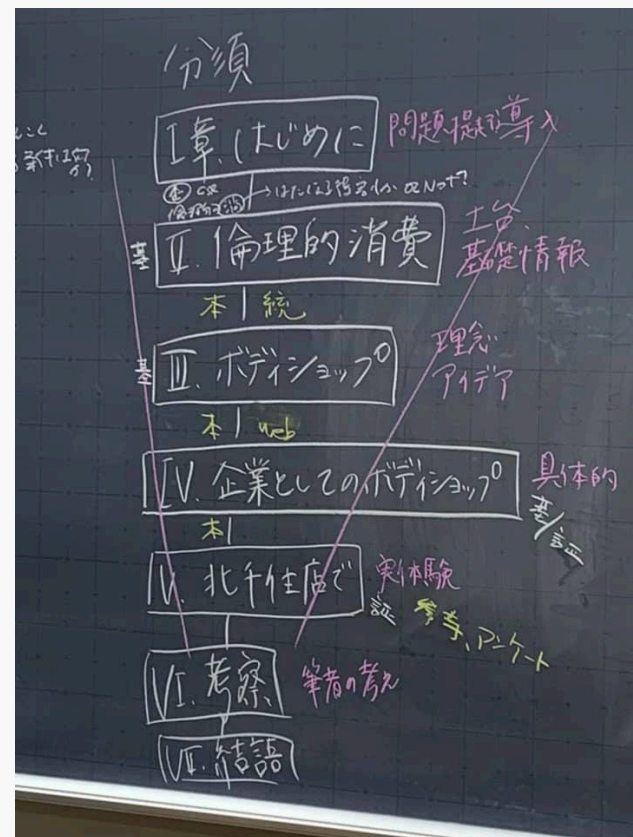
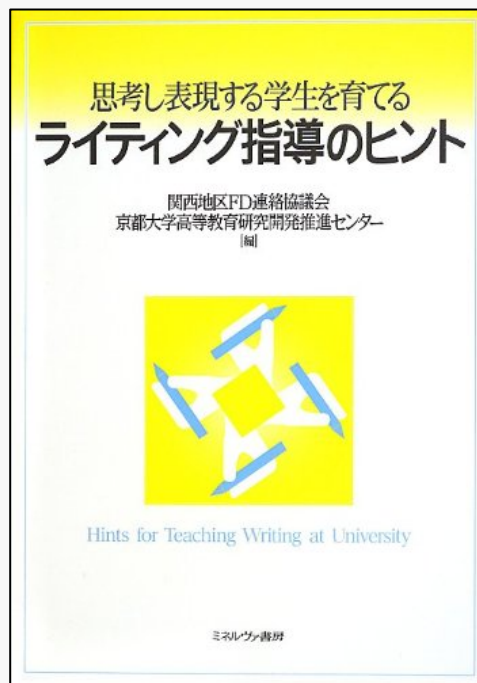
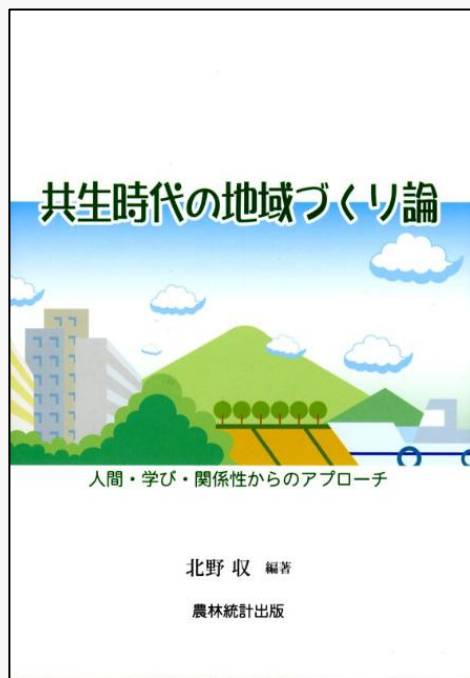


# 卒論とは何か



龍谷大学  
RYUKOKU UNIVERSITY

獨協大学外国語学部 北野 収

@龍谷大学経済学部西川ゼミ



獨協大学

# 論文とは？

## レポートとの違い

- 研究とは、自分が設定した「問い」を解明するために、必要な実証情報を妥当な方法で収集し、妥当な方法で分析・考察し、そこでのファインディングから、「問い」への答えを得る作業。
- この作業を所定の書式手続きに収めた書き物（読み物）を論文という。
- 既に明らかになっているが、自分の勉強不足で知らなかった事柄を調べることは、個人の勉強に過ぎず、研究とはいえない。
- 論文を書くことは、調べたことを書くこと（いわゆるレポート）とは全く異なる。

料理に例えれば、このようなものではなく、、





フルコースディナー

# こちらの イメージに近い



懐石料理



- ・構造がある(前菜、主菜、デザートなど)
- ・明確なコンセプト(問い)がある
- ・パーツの役割分担がある
- ・流れがある
- ・コピペ(インスタント食品の利用)がない。

# 一番大事なことは「問い」 リサーチクエッション

- 半年～1年かけて問いを育て絞り込む(これで研究の60～70%)
- 問いに対する答えを、ファインディングとして「発見」することが研究。
- 一言でいえること。
- 3度WHYを問われて、耐えられること。
- 仮説を立てると良い場合がある。

# 配布論文の問いの例

※北野の言葉で翻訳したもの。

- 食料主権(川口祐未)
  - ローカル化の思想は文化横断的な普遍性を有するとしても、実地手法は地域個別的であるはず。
- 食意識(高橋大地)
  - 食への問題意識は生活・時代・宗教に規定されつつも本来個人的なものだが、総体として「都合のよい矛盾」が発生することを実証(し、それを乗り越えることの必要性を問う)。
- 国産花き(山崎桃)
  - グローバル化が進むなか、食用作物ではなく、生態系との関わりも希薄な花きについて、国産にこだわる合理的理由はあるのか。
- 玉村地産地消(原田あゆみ)
  - 地産地消は国や自治体による政策の側面だけでなく、現場での生活実践の側面があるはずと仮定し、多様なアクターによる地産地消のプロセスの「見取り図」を描き、この仮定を実証する。

# テーマ＝素材ではない

- テーマという漠然とした言葉は要注意
  - 事例、対象とする題材だけがテーマではない。
  - 料理法＝分析枠組みと方法(問いにつながる)がなければテーマではない。
- ただし、題材から執筆して料理法を考えてもいいし、料理法を先に決めてから題材を選定してもよい。
  - それは、本人の都合と先生との相談次第。
- 仮テーマが2度3度アップデートまたは破棄され、1年ぐらいして本当のテーマに出会う(見えてくる)のが普通。

# 第1章から書いてはいけない

- 第1章は一番最後に、読者を意識して、イントロや全体の見取り図などを示すもの。最初から書ける訳がない。
- 実証情報から先に書いて、分析枠組みを後で書いてもいいし、その逆でもいい。その後、分析、考察、結論を書き、最後に第1章をつける。
- 一番最後に、最終的な論文のタイトル、サブタイトルをつける。



# 絞り込みのイメージ

- 一般的な問題提起
- 絞り込んだ個別の文脈
- 問いまたは仮説と問い



# 社会科学論文では、 「自分の意見(＝根拠なき主観)」を 書いてはいけない！？

- 高校、受験でやった小論文の型(起承転結)は忘れよう。
  - － これまでのレポートの書き方で言われていた「自分の意見」という概念も忘れること。「意見」とは何か？主観は不要。
  - － 根拠、出典のない情報は一行たりとも書いてはいけない。図表も同じ。調査方法、日時、調査対象者の選定理由、分析方法なども根拠の一部。

**★引用ルール・手続きはしっかり守ること！**

  - － 数字であろうが、事例の内容であろうが、被調査者の話し言葉だろうが、すべて「データ」として捉えて接する。
  - － 一連の作業から導き出された(演繹or帰納)結論は「意見」ではなく「条件付きの事実」であるべき。
- **以上に矛盾するように聞こえるかもしれないが、あるゆる科学、特に社会科学は価値中立的には成立しない。その意味で、卒論で自分にとっての意味づけを述べることはGood(特に、結論部または冒頭部)。**
  - － 配布した参考卒論でも、自分にとっての意味づけに言及しているものもある。

# 論文全体での絞り込みのイメージ

- 総論
  - 各論
  - 実証
  - ファインディング
  - 考察(一般論への還元)
-

# ただ調べて書くのではなく、 情報の使い道を理解し、使い分ける

## 研究の分析的枠組みに関する情報

- 問い、仮説を説明するための概念的枠組みに関する情報、理論など
- 過去の研究結果、言葉の定義・概念、場合によっては新聞雑誌における論調や政府等の見解

## 基礎情報

- 地域概要、団体概要、背景、歴史、...

実証情報 ※1次情報がメインになるはず。

\* \* \*

定性情報、定量情報、1次情報、2次情報



# 情報の使い分け、距離の取り方

## 根拠が完全に示されている文献

- 学術論文、学術書 ①査読付き、②査読無
- 学術エッセイ、学術エッセイ集
- 各種調査報告書

## 根拠が示されていない文献

- 一般書
- 新書、文庫
- ジャーナリズム  
新聞、雑誌
- 政府や国際機関の見解  
白書、年次報告

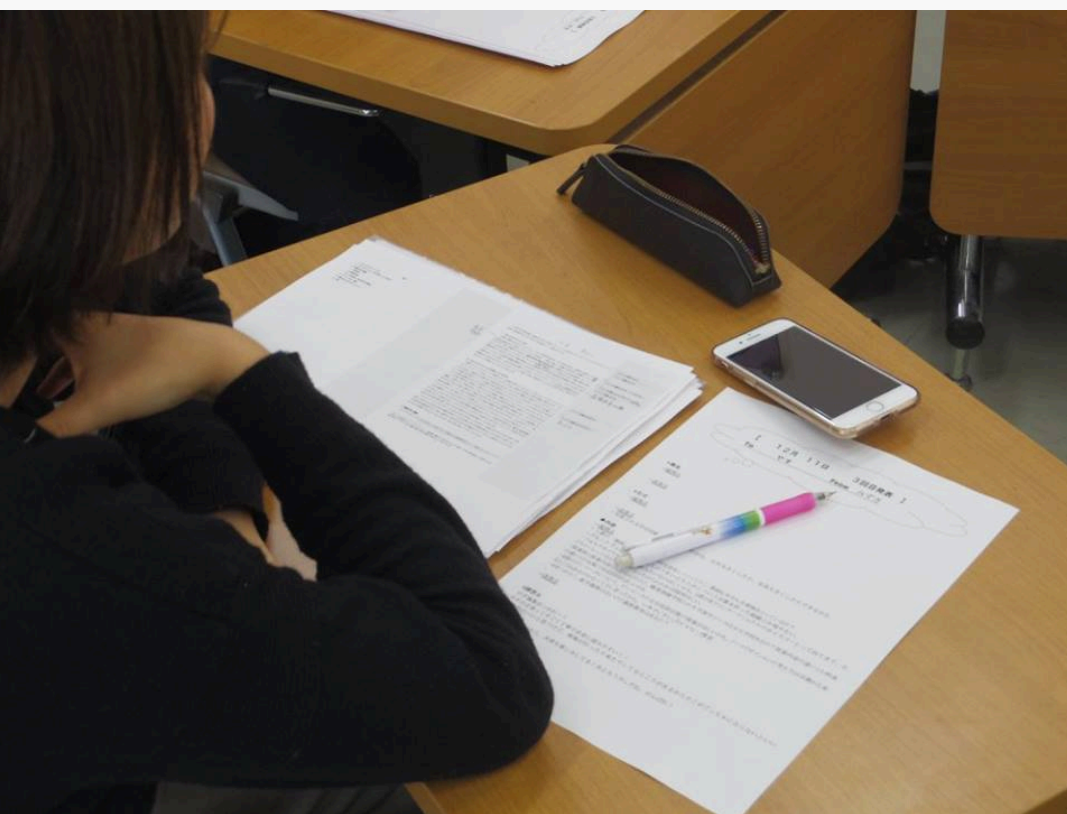
# 参照した文献や資料と筆者の立場を 同一視するような書き方はだめ

- 文献に飲み込まれないようにする。
- 文献との距離感、付き合い方をコントロールする。
- 原則は、文献に書かれていることと、筆者の立場を区別する。
- それを文章のなかで同一化するには、一定の検証手続きをした上で、「筆者の立場は、、、である」「本論文では、、、を援用する」などの標記が必要。

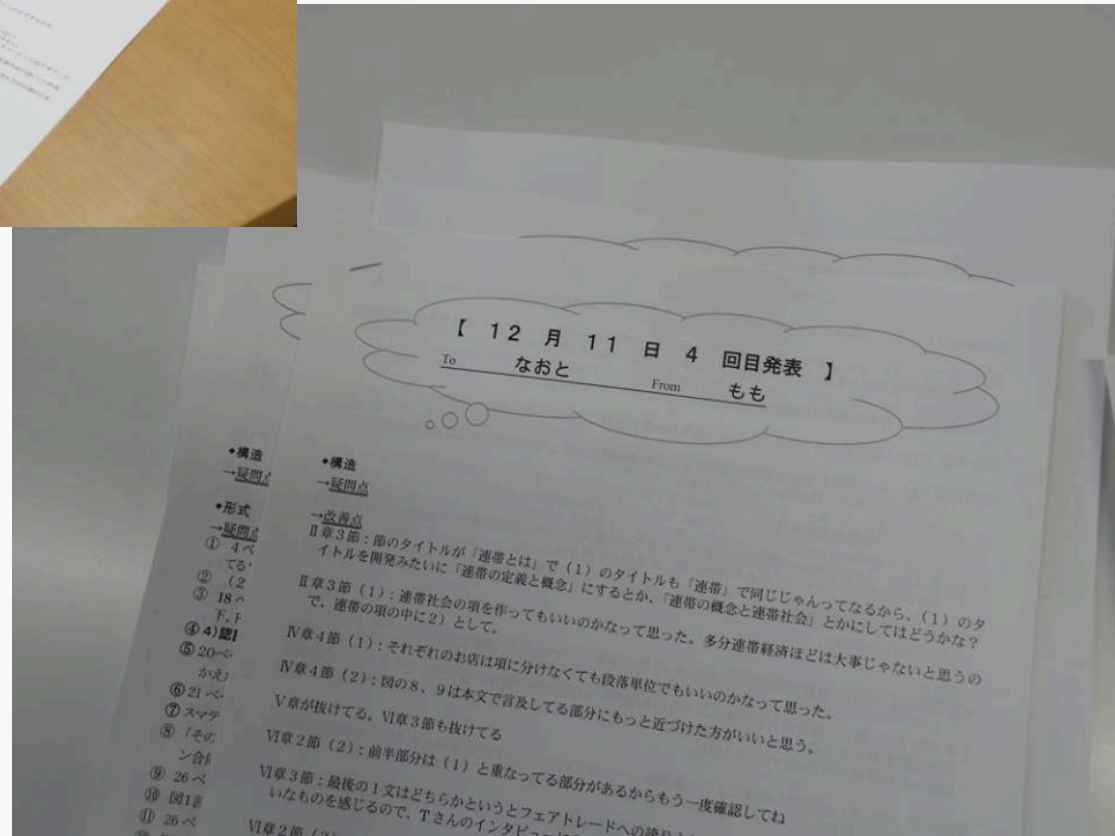
# 共同作業のススメ

- 書き下ろした文章や図表をできるだけ、先生だけでなく、同級生や先輩に事前に読んでもらい、ダメ出しをしてもらうこと。
- 単なる誤字脱字から、分かりずらさ、さらには、論理上の矛盾へと、他人の論文を直すことによって、大事なことが見えるようになってくる。
  - 常にWhy?、根拠は?を問う。
  - 章レベルでも「流れ」を読む。
  - 同じ内容を伝えるなら一行でも短い(無駄のない)文章がベター。A4二枚分の文章内容を図表1つで表現できるなら、図表プラス本文説明2-3行でOK。
  - 脚注を上手に使いこなせ。
- 結果的に、学年末の先生の負担も軽減される。

- コメントシートを事前に記入して、相互に添削。



- 誰でも最初はクラスメートに読まれるのは嫌だが、慣れれば、有難く感じるようになる。



# 学士課程で卒論を書くメリット

- 知の利用者、消費者でなく、知の生産者になることができる。
  - その結果、情報へのリテラシーが高まる(メディア電波芸者の類がいかに根拠がないことを言っているか?)。
  - おまけとして、自分の専門分野の理解も少し高まる。
- 社会でも有用な各種スキルが向上する。
  - 段取り、行程(工程)管理能力。
  - 問題解決、論理的思考能力。
  - 文章力、図表の作成、読み取り能力。
- 自分自身の潜在能力の再発見とエンパワメント(チャレンジ、達成感、自己実現)。



## 参考文献

- 北野編(2008)『共生時代の地域づくり論』農林統計出版。
- 関西地区FD連絡協議会・京都大学高等教育研究開発推進センター編(2013)『思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント』ミネルヴァ書房。
- 北野(2014)「大学におけるライティング指導の諸問題」『第19回FDフォーラム報告集』大学コンソーシアム京都。※PDFダウンロード可。
- 北野(2015)「学び合うコミュニティを創る～学修支援とピア・サポート～」『第20回FDフォーラム報告集』大学コンソーシアム京都。※PDFダウンロード可。

質問大歓迎です

[shukitano1@dokkyo.ac.jp](mailto:shukitano1@dokkyo.ac.jp)までお願いします。